

平成 30 年度

花巻市行政評価委員会の評価結果に対する市の考え方

平成 31 年 1 月 花巻市

目 次

政策No.・政策名	施策No.・施策名	部会	ページ	
1-1 農林業の振興	1 農業生産の支援	しごと	1	
	2 担い手の育成		2	
	3 生産基盤の整備		3	
1-5 農工商観連携の推進	1 起業の推進		4	
	2 特産品の開発		5	
	3 企業誘致の推進		6	
2-3 防災危機管理体制の充実	1 危機管理体制の強化	暮らし	7	
	2 自然災害対策の強化		9	
2-5 福祉の充実	1 地域福祉の推進		11	
	2 高齢者福祉の充実		13	
3-2 学校教育の充実	1 学力・体力の向上		人づくり・ 地域づくり	15
	3 特別支援体制の充実			17
4-1 地域主体のまちづくり	1 地域づくりへの参加促進	20		
	2 コミュニティ会議の基盤強化	22		
行政評価の改善に関する提言			25	

施策No.1-1-1「農業生産の支援」

評価項目	検証・評価結果、指摘事項等	市の考え方	担当部課名
「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか。	機能している。なお、労働力確保以外の課題、例えば園芸作物のブランド化などの課題にも言及してあれば良い。	現状の喫緊の課題である労働力確保に特化して記載したのですが、今後の評価においては、施策全体を通じた課題や方向性を反映してまいります。	
「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。	成果Cの事務事業についての要因分析がなされていなかった。成果「一」の事務事業については説明がなされていた。成果B、Cになっている事務事業で、目標値の設定そのものに問題がある事務事業があり、改善を求める。	成果Cの事務事業については、今後、事業主体、関係者から聞き取りを行いながら要因分析を行ってまいります。また、事務事業の目標値については、次年度実施事業より検討してまいります。	農林部 農政課
「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。	主食用米の作付推進の要因について、ヒアリングでは説明があったので、シートにも記入すべきである。	次回評価から、その達成度に至った経緯等をわかりやすく記載いたします。	農林部 農政課
「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。	振興作物の対象が広範にわたるので、どの作物に重点を置いているのかが明示されていると、良い。	振興作物については、市とJAが構成員となる花巻市農業推進協議会で定め、全般的に推進している作物であることから、現状のとおりといたします。	農林部 農政課
●シート記載内容全般について	前年度評価の振り返りの項目内の（前年度評価時の今後の方向性）、（反映状況）というタイトル名が分かりづらい。事務事業の施策への貢献度の項目内の直結度にかかわる対象と意図が分かりづらい。	わかりやすさと効果的な行政評価の手法の両立について再検証し、施策評価シートや記載要領等において受け手に伝わるよう表示を工夫いたします。	総合政策部 秘書政策課

施策No.1-1-2「担い手の育成」

評価項目	検証・評価結果、指摘事項等	市の考え方	担当部課名
「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか。	機能している。		
「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。	的確に行われている。なお、担い手の育成のためにも、農業の新しい魅力を発信する事業や中山間地域については長期的な視点からの事業が必要ではないか、という意見があった。	平成 30 年度から、施策 1-1-1「農業生産の支援」の「都市農村交流推進事業」の中で、花巻市の農業の魅力を発信する「イーハトーブ農の発信事業」を実施しております。また、本施策内の「農地有効活用事業」の中で、中山間地域等の借り受け希望者の少ない地域の農地を借り受けた農業者へ特定地域農地流動化交付金を交付し、中山間地域の農地の集積を進めております。 今後も、花巻市の農業の魅力を発信、中山間地域の活性に向けて事務事業の検討を進めてまいります。	農林部 農政課
「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。	的確に行なわれている。ただし、成果指標の目標値の設定については再検討が必要ではないか。例えば、集落営農組織の法人化率目標値 100%は無理な設定である。	成果指標の目標値については、全集落営農組織の法人化を目指したのですが、法人化に向けた組織内の意識に温度差（「例：作業員及び事務員の確保、法人の財務処理、構成員の法人化志向」）があることから、目標値の見直しは必要と考えております。	
「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。	短期的な課題や方向性については、的確に行われている。農業を取り巻く内外の状況を考えると、長期的視点での課題や方向性を示すことも必要である。	市内の各集落で作成し、将来の集落の在り方をまとめた「集落営農ビジョン」について、毎年集落内で見直しを重ね、これらをもとに、市として「地域農業マスタープラン」を策定しています。今後、同プランを踏まえ、長期的視点での課題や方向性について検討してまいります。	
●シート記載内容全般について	専門用語が多用されており、表現に工夫が必要である。	わかりにくい専門用語については、注釈を加えるなど工夫いたします。	

施策No.1-1-3「生産基盤の整備」

評価項目	検証・評価結果、指摘事項等	市の考え方	担当部課名
「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか。	機能している。		農林部 農村林務課
「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。	的確に行われている。新たに取り組むべき事業として、中山間地域対策が必要である。	<p>施策を構成する事務事業の「農村環境保全事業」の中に「多面的機能支払交付金事業」があり、中山間地域の68組織が農地・農業水路の保全管理に取り組んでおります。今後、「農村環境保全事業」の検証において効果等を記載いたします。</p> <p>さらに、中山間地域における農業継続のため、地域の話し合いを進めるとともに、最小限の農家負担で農地の基盤整備等を行うことができる「農地中間機構関連圃場整備事業」等について、中山間地域の活性化に向け関係組織と連携し周知してまいります。</p>	
「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。	的確に行われている。法人化政策の成果である。		
「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。	的確に行われている。		
●シート記載内容全般について	専門用語が多用されており、表現に工夫が必要である。事業の実施主体と事業の対象者が分かりづらい。	今後、分かりやすく表現するよう努めます。	

施策No.1-5-1「起業の推進」

評価項目	検証・評価結果、指摘事項等	市の考え方	担当部課名
「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか。	機能している。	/	
「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。	的確に行われている。		
「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。	的確に行われている。ただし、達成度の評価に関しては、数値目標にのみ依存する成果指標だけの評価では不十分である。数値化しえない活動を加味しながら達成度を評価する仕組みを考えてはどうか、という意見が出た。	「達成度」については、数値化した客観的な成果指標で判定することを基本としております。数値で測ることのできない成果については、「達成状況の背景・要因」欄において記載する等、施策全体の評価がもれなく伝わるよう工夫してまいります。	総合政策部 秘書政策課
「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。	行なわれている。ただし、様々な活動を含む企業コーディネート機能を強化とした場合に、どの活動を強化するのか、ということが理解しづらい、という意見があった。	起業化支援センターによる企業コーディネート機能については、市内企業への訪問、各関係機関との情報交換や協働での活動などをいっそう強化するほか、市内事業所の課題やニーズを的確に把握し、その解決に向けた活動（各種支援施策の採択に向けたフォローアップ、販路拡大や技術的な課題のクリアなど）を展開してまいります。また、上記活動の強化と並行して、コーディネーターの資質向上を引き続き目指してまいります。	商工観光部 商工労政課
●シート記載内容全般について	専門用語が多用されており、表現に工夫が必要である。	今後は、より分かりやすい表現を用いるよう努めてまいります。	

施策No.1-5-2「特産品の開発」

評価項目	検証・評価結果、指摘事項等	市の考え方	担当部課名
「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか。	機能している。		
「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。	的確に行われているが、新たに取り組むべき事業として、市場ニーズ把握などの市場調査事業、具体的な農産物を選定するターゲット選択事業、さらにはこの施策を市民に周知する事業を付加すべきとの意見があった。	いただいたご意見につきましては、今後の事業展開を行う際の参考とさせていただきます。	地域振興部 定住推進課
「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。	様々な商品開発が行われ一定の成果があるが、数値目標のみでの評価に依存すると「D」評価になってしまい、市民感情とギャップがありすぎることから、成果指標の見直しが必要である。総じて評価が辛すぎる。	<p>成果指標については、次年度に予定している第3期中期プランの策定の際に、目標値の設定を含めて再検討いたします。</p> <p>なお、「達成度」については、数値化した客観的な成果指標で判定することを基本としております。数値で測ることのできない成果については、「達成状況の背景・要因」欄において記載する等、施策全体の評価がもれなく伝わるよう工夫してまいります。</p>	地域振興部 定住推進課 総合政策部 秘書政策課
「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。	ワインに偏っているように見える。今後の方向性については、商工観の具体的な連携についても触れてほしい。	<p>平成29年度よりワインに関する取組が本格化したため、今回の評価より多くの内容を記載いたしました。</p> <p>特産品の開発においては、開発に取り組もうとしている方の情報を関係課と共有し、意向を踏まえたマッチング、原材料の生産確保、加工・販売面を含めた支援に取り組んでおります。</p> <p>今後は施策全体を通じた課題や方向性を反映してまいります。</p>	地域振興部 定住推進課
●シート記載内容全般について	(特になし)		

施策No.1-5-3「企業誘致の推進」

評価項目	検証・評価結果、指摘事項等	市の考え方	担当部課名
「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか。	機能している。		
「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。	的確に行われている。ヒアリングの際に、事務事業の一部の成果の修正が行われた。なお、新たに取り組むべき事業に関連して、人手不足が指摘されているが、具体的にどのような能力を持つ人が不足しているのかを明確にする一層よい。	全国同様、花巻市においても慢性的な人手不足であり、従業員が絶対的に不足していることに加え、中核的な人材も不足しています。また、大手以外の市内の企業等についてあまり知られていないことから、求職者に市内に立地する企業の業種や事業内容を知ってもらい、求める企業とのマッチングを図るため、企業ガイダンスや事業所説明会等を今後も実施してまいります。	商工観光部 商工労政課
「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。	的確に行われている。		
「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。	的確に行われている。ただし、施策 1-6-1 職業人材の育成などで取り組んでいることや、他部門と連携することなどを記載すべきである。	他の評価シート項目である内容には触れませんでした。関係する取組等については必要に応じて記載してまいります。	
●シート記載内容全般について	専門用語が多用されており、表現に工夫が必要である。	今後は、より分かりやすい表現を用いるよう努めてまいります。	

施策No.2-3-1「危機管理体制の強化」

評価項目	検証・評価結果、指摘事項等	市の考え方	担当部課名
<p>「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか。</p>	<p>見直しのための取り組みはなされているが、不十分である。具体的には、「地区役員の高齢化」については自主防災組織未結成地域だけの問題ではないし、区長だけをターゲットに意識醸成を図る手法は効果的でない。また、FM難聴地域への対策については、「何を」検討するのか具体的な対策を示す必要がある。</p>	<p>自主防災組織が「地区の共助」による活動となることから、自主防災組織未結成地区の行政区長を中心に設立を働きかけているものですが、来年度には広報紙を活用して住民向けに共助の必要性の周知に努めます。また、FM難聴地域への対策につきましては、市内複数の地点で難聴箇所があることから、来年度以降、難聴の範囲や原因を調査したうえで、解消方法を再度検討することとしております。</p>	
<p>「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。</p>	<p>貢献度や成果がC判定である事業について、「市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業・・・施策への貢献度の低い事業はないか」の欄において、「なし」とする根拠を明確にする必要がある。C判定である理由を整理して対象者に誤解を与えないような表現で説明すべきである。</p> <p>「施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか」に記載の「自主防災アドバイザー制度」だけでは、自主防災組織未結成地域への対策として不十分である。行政からの働きかけと「自主防災アドバイザー制度」の2段構えとする必要がある。</p>	<p>「生活再建住宅支援事業」につきましては、東日本大震災の被災者を対象としており、対象者が限定されることから直結度がC判定となります。また、復興の進展により対象となる被災者世帯が減ってきていることから成果はC判定となります。ただし、成果に関しては、現在「被災住宅・宅地の復旧・再建世帯数」を成果指標としておりますが、復興の進展に即した被災者の生活再建支援の成果を測るために、同「世帯の割合」に変更することを検討いたします。</p> <p>なお、本事業は被災者への生活再建のために岩手県内市町村全体で取り組んでおり、今後も継続が必要と考えております。</p> <p>自主防災組織未結成地域への対策としては、新規事業である「自主防災アドバイザー制度」とあわせて「出前講座」などの機会をとらえ、地域内での共助の重要性や自主防災組織の活動について啓発を続けてまいります。</p>	<p>総合政策部 防災危機管理課</p>

<p>「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。</p>	<p>文章表現がわかりにくい部分がある。例えば、自主防災組織の結成が必要な理由から説明し、自主防災組織を結成した後も組織ではこういった問題を抱えているのか、その問題をどのように解決していくかなどを分析することが望ましい。</p> <p>さらに、因果関係がはっきりした表現とする必要がある。自主防災組織の結成割合については、市の啓発活動により意識が醸成され成果が上がったということであるが、それが伝わらない。成果が上がった理由が明確になれば、自主防災組織未結成地域への対策にもつながる可能性がある。</p>	<p>自主防災組織は地域における住民同士の共助により防災を担う組織であり、災害時の対応力向上のために組織結成を推進しております。今後は、取り組んだ内容だけでなく、その必要性などについて施策全体の視点でわかりやすい記載に努めます。また、結成後も災害対応力向上のために訓練等が継続して実施されるよう自主防災組織に対する訓練支援などを実施してまいります。</p> <p>成果の向上理由につきましては、今後結成の届出が提出された際に役員に聞き取りを行うなど理由の把握に努めてまいります。</p>	
<p>「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。</p>	<p>市の立場を明確にした上で方向性を示すこと。具体的には、個別計画の取り組みを「お願いする」のではなく、市がなすべきこととして「図っていく」など市のスタンスがわかるような表現とする必要がある。</p>	<p>市では、自主防災組織への「個別避難支援計画」の作成支援を行いながら、作成した計画が実効性のある要支援者支援につながるよう、自主防災組織による訓練等を実施するよう働きかけております。今後わかりやすい表現にしてまいります。</p>	
<p>●シート記載内容全般について</p>	<p>施策評価シートだけでは理解できず、施策主管課長の説明を聞かないとわからない点があった。市が実施した講演会などについては「誰に」、「何を」、「何回」など具体的に記載するとイメージしやすい。</p>	<p>限られた記載スペースでは詳細に記載できなかった部分もありました。来年度の評価においては具体的な記載を入れて、より分かりやすい表記に努めます。</p>	

施策No.2-3-2「自然災害対策の強化」

評価項目	検証・評価結果、指摘事項等	市の考え方	担当部課名
<p>「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか。</p>	<p>情報提供に関することは機能しているが、「現状と課題」に書かれた内容を網羅していない。成果指標の目標達成のためには情報提供が重視されるが、実際にそれ以外にも多くのことに取り組んでいることから、「現状と課題」を踏まえて何らかの記載が必要である。</p>	<p>「反映状況」への記載につきましては、施策の目指す姿の達成につながる内容となるよう、十分に分析、検討いたします。</p>	
<p>「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。</p>	<p>「市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業・・・」について、「なし」であることは事務事業の「直結度」や「成果」から理解できるが、「なし」とした理由を記述した方がわかりやすい。</p> <p>「さらに成果の向上を図る事業」や「新たに取り組むべき事業」として、防災情報を知ってもらうために、地域単位で防災訓練を実施する機会をつくる必要であり、同時にFMはなまきを聴いてもらえる工夫も必要である。</p>	<p>いずれの事務事業につきましても、自然災害への備えとして必要なものと判断し、本欄への記載は「なし」としているものです。</p> <p>防災訓練につきましては、施策 2-3-1「危機管理体制の強化」において地域ごとに取り組んでおりますが、FMはなまきで発信する防災情報を聞いてもらえるよう、広報紙や出前講座の機会を活用して周知を図ってまいります。</p>	
<p>「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。</p>	<p>成果指標が2つともアンケート調査結果であるが、客観的な指標を設定した方がよい。現状では実績値の増減理由の分析ができないし、施策の目指す姿の達成のために何をすべきかを考えられない。</p> <p>成果指標「水や食料、備品等を備蓄している市民の割合」について、アンケートの設問に「備蓄」の定義を明記すべきである。人によって設問の捉え方が異なり、例えば、災害用持ち出し袋があるかないかで「備蓄していない」と判断する人がいる可能性もある。ハザードマップの裏面に記載されている「食料3日分、水9ℓ」などを設問に示すことで改善することができる。</p> <p>「ハザードマップに『備蓄』の定義を明記した。今後普及を図っていく」などと記載して今後の方針につなげるとわかりやすいのではないか。</p>	<p>大規模な自然災害発生時には市や自衛隊などの「公助」による対応がなされるまで時間がかかることから、まず身を守る方法として効果的な「自助」として、避難場所への避難と、避難することが困難な場合などを想定した備蓄に関する意識を成果指標としているものです。</p> <p>アンケートの設問に「備蓄」の目安を示すなど来年度に向けて改善を検討いたします。また、次年度に予定している第3期中期プラン策定の際に、客観的な指標の追加について検討します。</p> <p>なお、裏面に備蓄の品目を記載したハザードマップにつきましては、配布が30年度となったことから、来年度の成果の分析で検証してまいります。</p>	<p>総合政策部 防災危機管理課</p>

<p>「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。</p>	<p>急傾斜地崩壊対策事業については、県に依存している印象であり、市としてどう取り組むのかが見えない。市内の急傾斜地崩壊危険箇所が200か所以上もあり、すぐに対応できないのであれば、説明会の開催など市がなすべき方向性を示す必要がある。</p>	<p>急傾斜地崩壊対策事業につきましては、県に対して必要な事業を実施するよう要望していくこととしております。また、各地域のハザードマップに急傾斜地崩壊危険箇所の情報を掲載済みであり、今後も引き続き広報や出前講座等で周知を図ってまいります。</p>	
<p>●シート記載内容全般について</p>	<p>「現状と課題」などにおいて、具体的に記載するとわかりやすく、市民に安心感を与えられる。例えば、未改修箇所については「〇か所」、「見直されています」についてはどのように見直されているか、「県に要望している」についてはその後どうなったかなどを記載する。</p> <p>なお、平成28年度から平成29年度にかけて成果指標の目標値を見直した経緯について、シート内に説明があった方がよい。</p>	<p>具体的な数値等については、施策評価シートや事務事業評価シートのわかりやすい箇所への記載に努めます。</p> <p>なお、成果指標の目標値見直しの経緯につきましては、第2期中期プランの策定に伴うものでありますが、年度間の実績値の比較分析などに必要な際は、施策評価シートに記載することといたします。</p>	

施策No.2-5-1「地域福祉の推進」

評価項目	検証・評価結果、指摘事項等	市の考え方	担当部課名
<p>「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか。</p>	<p>平成29年度に実施した民生委員へのアンケート調査に関する分析は平成30年度に持ち越しているが、概要だけでも分析しておけば課題が明らかになったのではないかと。分析の結果、例えば、「現役世代への相談機関の周知方法」についても、困りごとへの対処なのか、困る前の予防なのか、どこに重点を置いて相談窓口をつくれれば良いのかが具体的に見えてくるのではないかと。</p>	<p>民生委員児童委員へのアンケート調査結果の詳細な分析を行い、課題解決のために進むべき方向の明確化、具体化を進め、今後の対応につなげるとともに、来年度の評価に反映させてまいります。</p>	
<p>「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。</p>	<p>ほかの施策でも同様のことがあったが、「新たに取り組むべき事業」等の項目を「なし」とする理由について記載されていればわかりやすい。ただし、本施策の場合、民生委員へのアンケート結果の分析を踏まえた新たな課題を「新たに取り組むべき事業」として挙げるべきである。</p> <p>評価は行われているが、具体的な取組が書かれていない。事務事業評価シートにおいても同じである。例えば、情報発信について、「引き続き検討する」だけでなく、相談窓口を知らない人へどうやって発信していくのかまで掘り下げて記載するべきである。</p> <p>成果指標「悩みや問題を抱えたときに相談できることを知っている市民の割合」に使っているアンケートの設問について、相談窓口を知っていると答えた人に対し、「どういった方法で知りましたか？」と掘り下げれば、具体策が出てきて次のステップに進めるのではないかと。</p>	<p>民生委員児童委員へのアンケート調査結果の詳細な分析を行い、新たな課題の発見や課題解決のために進むべき方向の明確化、具体化を進め、今後の対応につなげてまいります。</p> <p>「新たに取り組むべき事業」等の項目を「なし」とする理由の記載については、ご指摘のとおりと考えておりますので、具体的な取組を含め次年度以降、詳細な記載を行ってまいります。</p> <p>なお、アンケートの設問内容については、ご指摘の内容を踏まえ、次年度に向け検討してまいります。</p>	<p>健康福祉部 地域福祉課</p>

<p>「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。</p>	<p>成果指標がアンケート結果だけでは不十分である。また、アンケートの設問についても、上記のように再検討が必要である。</p> <p>さらに、現状では、アンケート結果の分析のみで背景・要因の記載がない。これまでの取組を含めて記載すればわかりやすいし、民生委員へのアンケート結果の概要を入れて違う角度から分析する手法もある。</p>	<p>「地域福祉」という概念は非常に広義であることから、成果指標については、現アンケート結果を使用しております。また、成果指標及びアンケートの設問内容については、次年度に予定している第3期中期プラン策定時においてより客観的な内容を盛り込めるよう検討してまいります。</p> <p>分析における視点については、ご意見を踏まえ検証してまいります。</p>	
<p>「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。</p>	<p>「課題」に「相談件数については伸びが見られない」と記載されているが、相談した人の満足度や改善度が成果であり、相談件数の多寡では測ることができなのではないか。</p> <p>さらに、「連携」という言葉が出てくるが、具体的にどのように改善するのか記載されていない。現状を整理すれば、地域のつながりについての課題、個人情報管理に関する課題などがあるはずであり、その取扱いの検討や条例の整理などはまさに行政の役割である。</p>	<p>「相談件数の伸びが見られない」という点については、相談したくてもできない潜在的な要支援者がいるのではないかという意図から記載させていただいております。ご指摘いただきました「満足度」、「改善度」の把握につきましては、上記の成果指標やアンケートの設問内容の設定等により検討してまいります。</p> <p>なお、民生委員の負担軽減のための「連携」については、アンケート調査から見えてきた実態をもとに、今年度中に関係機関等との協議を進めてまいりますとともに、次回評価からはより詳しい表記に努めてまいります。</p>	

施策No.2-5-2「高齢者福祉の推進」

評価項目	検証・評価結果、指摘事項等	市の考え方	担当部課名
<p>「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check=評価」⇒「Action=見直し」が機能しているか。</p>	<p>十分に機能しているとは言えない。例えば、「支援を行った」結果「どうなったのか」までであるとわかりやすい。また、本施策の範囲が広いと、行政がなすべきことを見極めることができず、課題が明らかになっていない印象を受ける。</p>	<p>団体に対して直接支援を行っているものや社会福祉協議会などが行う事業に対して補助金を交付しているものについて、団体等への支援事業として具体的な結果を表記しておりませんでした。今後は高齢者の集いの場所とともに介護予防の取組の場としての役割も重要となることから、来年度の評価においては、より分かりやすい表記に努めます。</p>	<p>健康福祉部 長寿福祉課</p>
<p>「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。</p>	<p>「①市民ニーズや市の関与の必要性・・・」の欄に老人クラブについて記載されているが、成果「C」であることについて、どう改善するのかまで記載する必要がある。</p> <p>「新たに取り組むべき事業・・・」の欄に「介護サービス事業所での人手不足解消を図るために介護人材確保事業が必要」とあるが、根拠の記載がない。人手不足は全国的、一般論的なことであり、花巻市の現状として、「必要数〇人のところ〇%充足している」など具体的な記載があるとわかりやすい。必要に応じて、事業所へのアンケート結果などでもよい。</p>	<p>「高齢者社会参加活動支援事業」において、老人クラブの自主的な活動への支援に加え、高齢者の活躍の場、生きがいの場を創出するための事業に補助金を交付しております。現在の成果指標は前者に関する内容のみとなっておりますが、後者の成果を測ることができる指標を検討し、事務事業全体の成果を把握して改善点等を検証してまいります。</p> <p>介護人材不足については、特別養護老人ホーム、老人保健施設から聞き取り調査を行っており、多くの事業所において、職員の勤務状態の改善のため、新たな職員を必要としている状況にあります。来年度の評価においては、具体的な表記に努めます。</p>	
<p>「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。</p>	<p>成果指標「生きがいを持って暮らしている高齢者の割合」について、背景・要因の分析が不足している。本施策の事務事業だけで高齢者の「生きがい」を判断することは困難であり、生涯学習分野など本施策以外の要素を勘案した分析も必要である。</p>	<p>高齢者の「生きがい」に関する考え方が多種多様となっていることから、ご指摘の内容を踏まえ、高齢者福祉分野だけではなく他分野の視点も勘案して分析するようにいたします。</p>	

<p>「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。</p>	<p>介護サービス事業所での人材不足の解消については、支援内容を分かりやすく記載する必要がある。例えば、「奨学金返還者への支援」については、どのような人が対象となるかなどを記載しないと誤解される可能性がある。</p> <p>さらに、定着率の向上に関する対策も必要である。</p>	<p>「奨学金返還者への支援」については、介護サービス事業所等で働く人材の確保と定着を図ることを目的としたものであり、市の奨学金を利用して介護福祉士や看護師などの専門的資格を取得した後、市内の宿泊を伴う介護サービス事業所へ新卒で就職して、5年以上継続して従事することとしている人が対象となります。来年度の評価においては、分かりやすい表記に努めます。</p> <p>定着率向上に関する対策については、今後、介護サービス事業所などから聞き取りを行いながら検討してまいります。</p>	
<p>●シート記載内容全般について</p>	<p>使われている言葉がわかりにくい。例えば、「在宅医療介護連携推進会議」は誰がどのような対応をするのか、「顔の見える関係づくり」とは具体的にどういったことなのかなど、わかりやすい表現になると良い。</p> <p>似たような事務事業名で区別しづらいため、副題を付けるなどして事業内容をイメージすることができるようにしてはどうか。</p>	<p>「在宅医療介護連携推進会議」については、高齢者の在宅生活を支える医療・介護の関係者が顔を合わせて意見交換等を行い、互いに連携して課題解決を進めるものです。また、このことにより親近感や責任感などが深まり、連携がスムーズに進むことを「顔の見える関係づくり」と表現しております。来年度の評価においては、具体的に分かりやすい表記に努めます。</p> <p>施策を構成する事務事業については、基本的には、現行の体系を維持してまいります。</p>	

施策No.3-2-1「学力・体力の向上」

評価項目	検証・評価結果、指摘事項等	市の考え方	担当部課名
<p>「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(前年度評価時の今後の方向性)の1つ目の②にある「家庭学習の重要性や部活動の適正化等の家庭や地域への働きかけ」について、その後どのような取組が行われたのかが不明であるため、(反映状況)に取組の内容を記載すべきである。 ・(反映状況)の2つ目について、「検定試験受験の補助を検討する」という方向性との整合性を考慮すれば、「検討の結果、補助事業の実施が決定し、事業開始後の周知を通じて、検定試験の受験率が上がった」ことが読み取れるように記載すべきである。 ・(反映状況)の3つ目について、平成29年度末時点の状況を記載するのであれば、「新たに」の語は削除すべきである。 	<p>記載不足や記載内容がわかりにくい箇所については、ご意見を参考とし、来年度からわかりやすい表現に努めます。</p>	<p>教育部 学校教育課</p>
<p>「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。</p>	<p>(新たに取組むべき事業はないか)について、以下の2点を指摘する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業サポーターや中学校サポーター配置について、なぜ「継続はもちろんのこと、可能であれば増員も検討したい」のか、背景や理由が文面を読む限りでは不明であるため記載すべきである。 ・食生活や生活習慣の変化による肥満傾向の児童生徒の増加傾向を踏まえれば、体力向上の取組は、小中学校の連携だけではなく、幼稚園や保育園を含めた、幼保小中連携による取組も必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習定着度状況調査やその他の学力調査結果を踏まえ、各学校から授業中に補助教員として導入しているサポーターの継続や増員を求める声があり、必要であると判断いたしました。 ・幼稚園や保育園を含めた体力向上実践校指定について、来年中に関係各課と検討いたします。 	

<p>「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。</p>	<p>体力・運動能力調査の達成状況について、なぜこのような調査結果になったのか背景の分析が行われていないので記載するべきである。</p>	<p>背景の正確な分析を行うためには、各学校での調査が必要であるため、その方法と内容について来年度の事業実施に向けて検討してまいります。</p>	
<p>「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(課題)の2つ目には、事業実践校指定の成果の総括を踏まえた、基礎体力向上のための課題を記載するべきである。 ・(今後の方向性)の2つ目には、事業実践校の新規指定が全市の基礎体力向上とどのようにつながるのか明記するべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実践校指定における成果については、実践校の報告をもとに、より詳細な分析を行ってまいります。 ・事業実践校を新規に指定することで、体力向上に役立つ新たな方法や効果的な取組が期待でき、それを市内全校に周知することで、基礎体力向上につながるものと考えております。 	
<p>●シート記載内容全般について</p>	<p>「このような結果になったのはなぜか(例：体力・運動能力調査の分析)」「この取り組みが必要なのはなぜか(例：授業サポーター・中学校サポーターの増員検討)」「この取り組みを行う意義は何か(例：実践校指定と全市的な基礎体力向上とのつながり)」を記載する際の背景や経緯の説明が、全体的に不十分である。</p>	<p>ご指摘の内容を参考にし、来年度の評価より、背景や経緯を含めた、わかりやすい表記にいたします。</p>	

施策No.3-2-3「特別支援体制の充実」

評価項目	検証・評価結果、指摘事項等	市の考え方	担当部課名
<p>「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか。</p>	<p>以下の2点について、「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているかどうか不明確である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(反映状況)の1つ目にある「ケース会議を実施した」の記述は、実施の回数・頻度や主な内容(たとえば、担当者間での情報共有や、関係機関との連携の内容など)といった、会議開催の具体的な実績がわからないので明記すべきである。 ・(反映状況)の2つ目にある「説明会を設定し、100%達成した」の記述は、読点の前後のつながりが不明確であり、説明会を設定した結果として「個別の教育支援計画」の作成割合が100%になったことがわかるように記載すべきである。この部分は、たとえば「各校の担当者向けの説明会を設定した。その結果、障がいのある児童生徒全員について『個別の支援計画』が作成され、作成している学校の割合が100%となった」としてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議は、毎月1回、不登校・不応児児童生徒に関わる生徒支援員や教育相談員、スクールソーシャルワーカー(子どもの家庭環境による問題に対処するため、学校や教員に指導助言を行う)等が集合し、各学校の担当からそれぞれの状況報告を受け、対策を協議するなど情報共有しております。来年度から、評価シートにわかりやすく明記するよう努めます。 ・ご指摘の例を参考に、来年度評価において、文章表現を吟味し、評価・見直しの観点が明確となるよう努めます。 	<p>教育部 学校教育課</p>
<p>「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。</p>	<p>(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか)の内容について、以下の2点が的確ではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい共育推進員の「資質向上を図る研修」は、具体的にどのような資質の向上を図るのかを明記すべきである。 ・「学校のニーズ」に対して、支援員配置を今後どのように「充実する必要がある」のか、ニーズに対する支援員配置の過不足の状況などについて具体的な根拠を付して記載すべきである(「充実」については、たとえば人員を増やさずに資質向上を図る方向性もあれば、人員の増加と資質向上の両方を充実させる方向性も有り得る)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資質向上については、ふれあい共育推進員が発達障がいへの理解を深め、障がいに応じた適切な指導力(資質)を身に付けることを指します。今後は、わかりやすい表記に努めます。 ・「学校のニーズ」(市内全30校からの推進員配置要望)については、平成30年度の各学校の不登校児童生徒数や在籍する児童生徒の検査結果等を分析・検討して実態を把握いたします。その上で、平成31年度の実態に即した人員(1名または複数)を配置します。さらに研修会の開催により支援員と推進員の資質向上の充実を図ってまいります。 	

<p>「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。</p>	<p>「個別の教育支援計画作成の割合」の分析は、障がいのある児童生徒全員の「個別の教育支援計画」が作成され、その結果として全小中学校において障がいのある児童生徒の状況を把握可能になったことが読み取れるように記載すべきである。</p>	<p>来年度の分析においては、よりわかりやすい表記に努めます。</p>	
<p>「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。</p>	<p>以下の5点が的確ではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(課題)の1つ目にある「資質」や「連携」の具体的な内容を明記すべきである。 ・(課題)の2つ目にある「作成割合が100%となった」という記述は、課題を提示していない。作成割合100%を実現した上で、どのような課題があるのか具体的に記載すべきである。 ・(今後の方向性)の2つ目の内容は、(課題)の2つ目に対応していると考えられるが、課題の内容が不明であるため、今後の方向性の内容が妥当なものなのか判断できない。また「周知徹底する研修・伝達の機会を設定する」の記述は意味が理解できない。 ・(課題)の3つ目にある「充実を図る」は、繰り返しになるが、ニーズの高まりに対して支援員配置をどのように充実させるのか、ニーズに対する過不足の状況などについて具体的な根拠を付して記載すべきである。 ・(今後の方向性)の3つ目にある「充実」や「適切な学校配置」の記述は、それらの具体的な内容を、学校のニーズに対する過不足の状況などの具体的な根拠を付して記載すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(課題)1つ目 不登校児童生徒を担当する教育相談員や生徒支援員等が、その原因や状況を理解・分析できる能力(資質)を高め、教職員やスクールソーシャルワーカー(子どもの家庭環境による問題に対処するため、学校や教員に指導助言を行う)と情報共有(連携)することを指します。 ・(課題)及び(今後の方向性)2つ目 課題としては、より詳細な個別の指導計画の作成が必要と考えております。 今後は(課題)と(今後の方向性)を吟味し、具体的に記載いたします。 ・(課題)及び(今後の方向性)3つ目 学校のニーズ(市内全30校からの推進員配置要望)については、平成30年度の各学校の状況を分析・検討して実態を把握いたします。また、支援員や推進員配置の充実については、分析・検討した内容をもとに、平成31年度の実態に即した人員配置(1名または複数)を行います。さらに研修会の開催による支援員等の資質向上の充実を図ってまいります。 今後は、よりわかりやすい表記となるよう努めます。 	

<p>●シート記載内容全般について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議や計画作成などの活動は、「実施した」「作成した」などの事実の記載ではなく、それらの回数・頻度・内容などの実績が具体的にわかるように記載するべきである。 ・「ニーズの高まりに対して体制の充実を図る」場合、ニーズや現状の体制などについての根拠を出来る限り（量的な数値などの形で）具体的に明示するべきである。 ・本施策評価シートにある「LD」や「ADHD」などのような専門用語は、一般の市民でもその概要が理解できるように説明を付けるべきである。 	<p>来年度の評価においては、ご指摘を踏まえ、具体的にわかりやすい表記となるよう努めます。</p>	
-----------------------	--	---	--

施策No.4-1-1 「地域づくりへの参加促進」

評価項目	検証・評価結果、指摘事項等	市の考え方	担当部課名
<p>「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check=評価」⇒「Action=見直し」が機能しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(前年度評価時の今後の方向性) には、いつ実現できるかわからない目標ではなく、次の評価までの間に取り組むべき具体的な目標を記載すべきである。また、その内容は、各施策の間の相互の関係を適切に踏まえたものとするべきである(5つ目に記載されている「振興センターの利用人数を増やすためにも、人口減少に歯止めをかけることは不可欠」との記載は適切ではない)。 ・(反映状況) の記載内容のうち、1つ目の「ファシリテーション研修会を開催した」、3つ目の「イベント等の周知を12回行った」、4つ目の「市民ライター養成講座を5回実施した」については、それらが前年度評価時の今後の方向性で示された目標の実現にどの程度つながったのか、具体例を入れながら説明をするべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振興センターの利用人数を増やすことと人口減少に歯止めをかけることは関係性に欠けており、分析が不十分であったことから、今後においては、具体的な目標や施策間の相互関係を踏まえた内容といたします。 ・1つ目については、ファシリテーション研修会の参加者が、ワークショップを開催したコミュニティ会議において意見を引き出す役割を担うことから、幅広い年代が地域づくりに参加できる仕組みづくりの一助となっているものです。 3つ目については、市広報やホームページによる周知により、婚活イベントに400人以上が参加し、80組のカップルが誕生するなどの成果が表れたものです。 4つ目については、市民ライター養成講座の受講者等による花巻市の魅力を記事化し、ホームページに掲載することによりシティプロモーションの強化が図られたものです。 今後は目標の実現にどの程度つながったかを具体例を入れて説明するようにいたします。 	<p>地域振興部 地域づくり課</p>

<p>「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・はなまき婚シェルジュ事業の事業検証の必要性の記述については、市民ニーズの低下を実際に把握する段階に至っていないため、この欄への記載は不要である。 ・（新たに取り組むべき事業はないか）の欄に記載されている振興センターの改修については、その取組が「公共施設管理計画」との整合性を踏まえたものであることを明記すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はなまき婚シェルジュ事業については、市の関与の必要性が低下した可能性があるため、市民ニーズの的確な把握が必要という意図で記載いたしました。 ・振興センターの改修については、ご指摘のとおり「公共施設管理計画」との整合性を踏まえて進めるものであることを明記すべきでした。 <p>以上の点について、今後は考え方を整理してわかりやすく記載いたします。</p>	
<p>「3 成果指標の達成状況」の「（達成状況に関する背景・要因）」の分析が的確に行われているか。</p>	<p>振興センターの利用人数については、利用人数が増加しているセンターがある中で、全体的には長期的に減少していることの原因や背景を分析すべきである。</p>	<p>今後、振興センターの詳細な利用状況を把握して原因や背景を分析いたします。</p>	
<p>「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。</p>	<p>（課題）と（今後の方向性）の両方に、利用人数が減少し、達成度もCである「振興センターの利用」に関する内容を記載すべきである。</p>	<p>地域活動の拠点施設である振興センターの利用人数の減少により、地域づくり活動への影響が出ることも考えられることから、振興センターの利用状況の実態調査を行い、その背景や要員を分析する必要があると考えております。</p>	
<p>●シート記載内容全般について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の評価の振り返りの欄の（反映状況）の内容は、それが方向性に記載された目標の実現にどの程度つながるものなのかが分かるように記載すべきである。 ・評価を毎年行うのであれば、今後の方向性には、次の評価までの具体的な取り組みの目標を記載すべきである。ただし、今後の方向性として、実現に複数年を要する目標を設定せざるを得ない場合は、目標の実現に向けた複数年にまたがる道筋を、行程表などでわかりやすく示すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・（反映状況）については、いただいたご意見に基づき、今後は目標の実現にどの程度つながったかがわかるよう具体例を入れて説明するようにいたします。 ・（今後の方向性）については、具体的な取組目標を記載するようにいたします。また、実現に複数年を要する事業については、次回評価から必要に応じて「行程表」などを用い、わかりやすい表記といたします。 	<p>地域振興部 地域づくり課 総合政策部 秘書政策課</p>

施策No.4-1-2「コミュニティ会議の基盤強化」

評価項目	検証・評価結果、指摘事項等	市の考え方	担当部課名
<p>「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか。</p>	<p>（前年度評価時の今後の方向性）について、3項目のいずれも、複数年度にまたがって取り組まなければ実現不可能と思われる内容を記載しており、翌年の再評価を前提としたものになっていない。評価を毎年行うのであれば、今後の方向性には、次の評価までの具体的な取り組みの目標を記載すべきである。また、（反映状況）の記載内容について、以下の3点の記載に不明確な点がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（反映状況）の1つ目について、3地区でのワークショップ開催の結果を「コミュニティ会議と市との協議の場」で共有したことが、「対話」を取り入れる仕組みの構築においてどのような意義を持つのか説明がなされていない。共有したことで、仕組みの構築がどの程度実現できたのかが読み取れるようにするべきである。 ・（反映状況）の2つ目について、「地域づくり講演会を開催」したことが、より一層の地域づくりの推進を図る上でどのような意義を持つのか説明がなされていない。講演会の開催によって、一層の地域づくりの推進がどの程度実現できたのかが読み取れるようにするべきである。 ・（反映状況）の3つ目について、地域づくり交付金のあり方の協議や検討の継続が、より良い地域づくりの仕組みの構築においてどのような意義を持つのか説明がなされていない。協議や検討の継続により、より良い地域づくりの仕組みの構築がどの程度実現できたのかが読み取れるようにするべきである。 	<p>（前年度評価時の今後の方向性）の記載内容については、単年度では結果が出ない大きな目標設定であったことから、今後においては、単年度毎の具体的な取組や目標を記載いたします。</p> <p>（反映状況）の3点については下記のとおりであり、（今後の方向性）の改善点を踏まえ、来年度の評価においては、分かりやすい表記に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1つ目については、ワークショップによる「対話」が、幅広い住民の意見の吸い上げに有効な手段であることを共有したことで、まだ導入していないコミュニティ会議へ波及させることができたものです。 ・2つ目の地域づくり講演会は、協働のまちづくりの推進を図るため、市民、コミュニティ会議、支援団体、行政がそれぞれの役割について理解を深めることを目的に開催したものであり、地域づくりへの意識向上の第一歩となったものです。 ・3つ目の地域づくり交付金は、地域課題の解決等を目的として交付しているものですが、ハード事業の問題点や使い道に困っているコミュニティ会議も出てきていることから、どの様なあり方が良いかを検討している状況であり、まずは、問題点の抽出を行ったものです。 	<p>地域振興部 地域づくり課</p>

<p>「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(新たに取り組むべき事業はないか)の2つ目について、「地域自治に関する総合的な懇談会の開催」の具体的な内容が分からないので明記するべきである。 ・地域の各層(部会の質疑によれば、特に若者)の参加の増加が課題であるにもかかわらず、この課題に対応する事務事業がどれなのか明確ではないので分かるような説明をするべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内各種団体、NPO、子育て支援等で活躍されている方々を構成員とし、地域づくりの課題解決策をともに検討するものです。今後、より分かりやすい表記に努めます。 ・若者も含めた幅広い年代が地域づくりに参加する仕組みづくりのため、ワークショップを取り入れた意見集約の導入を進める事業を展開しています。明確な表記とはなっていないことから、今後は、より分かりやすい表記に努めます。 	
<p>「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか。</p>	<p>施策としての達成度は「A」であるにもかかわらず、構成する事務事業の成果がいずれも「B」である。更なる施策の成果の向上に向けて、各事務事業のB評価のA評価への向上を図るための分析が必要である。</p>	<p>コミュニティ会議において解決できなかった課題やその原因等を調査し、成果向上を図ります</p>	
<p>「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(今後の方向性)については、1つ目の(ワークショップ等の「対話」を取り入れた仕組みの構築)という内容が、前年度評価時の今後の方向性と同じである。また、3つ目の(地域づくり交付金のあり方の協議継続)と、4つ目の(より良い地域づくりの仕組みの検討)は、文面を読む限り、前年度評価時の今後の方向性から内容が後退している。施策の達成度(A評価)に対し、文面の記載内容が釣り合っていない。 ・(課題)の3つ目については、交付金のあり方の検討がなぜ必要なか、背景にある問題点の説明がなされていないため明記が必要である。 	<p>1つ目のワークショップについては、導入していないコミュニティ会議があり、引き続き実施が必要と判断したため同じ記載としております。また、3つ目、4つ目については、各コミュニティ会議で課題となっている「担い手不足」、「役員の負担感」などを解決していかないと今後地域自治が成り立たなくなることから、検討が必要であると判断したものです。</p> <p>以上についての説明が不十分であり、単年度では結果が出ない大きな目標設定であったことから、今後は、単年度毎の目標を記載し、分かりやすい表記に努めます。</p>	

<p>●シート記載内容全般について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の評価の振り返りの欄の（反映状況）の内容は、それが今後の方向性に記載された目標の実現にどの程度つながるものなのかが分かるように記載すべきである。 ・評価を毎年行うのであれば、今後の方向性には、次の評価までの具体的な取り組みの目標を記載すべきである。ただし、今後の方向性として、実現に複数年を要する目標を設定せざるを得ない場合は、目標の実現に向けた複数年にまたがる道筋を、行程表などで分かりやすく示すべきである。実現に複数年を要する目標を、実現への道筋を示さずに複数年続けて同じ文言を用いて（今後の方向性）に記載し続けることは、市民に対して課題解決の取組が進歩していないとの印象を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・（反映状況）については、分かりやすい表記に努めます。 ・（今後の方向性）については、単年度毎の具体的な取組や目標を記載いたします。また、地域づくり交付金のあり方の検討や見直し等については、実現までに複数年を要することから、平成 30 年度より必要に応じて「行程表」を用いて分かりやすい表記といたします。 	<p>地域振興部 地域づくり課 総合政策部 秘書政策課</p>
-----------------------	--	---	---

行政評価全般

評価項目	検証・評価結果、指摘事項等	市の考え方	担当部課名
行政評価の改善に関する提言	<p>花巻市行政評価委員会の充実のため、委員会に出席できる方を委員に選任すべきである。また、多くの委員が出席できるような時間帯を設定するなど委員会の日程調整の工夫が必要である。</p> <p>中長期的な視点が必要な施策の評価に当たっては、各年度の具体的な取組を明らかにした「行程表」のような資料があれば、毎年度の評価を適切に実施することができる。</p>	<p>委員の選任に当たっては、各団体等へ委員の推薦をお願いする際に、委員会の日程等をあらかじめお知らせすることで、委員会出席への配慮をお願いしてまいりました。今後も同様に出席へのご理解とご協力をお願いしてまいります。</p> <p>部会の運営に当たり、部会開催に支障のないよう部会員の構成、日程の調整に努めます。また、必要に応じて、夕方以降などの新たな時間帯での部会開催について検討いたします。</p> <p>施策を構成する事務事業の中でも中長期的な視点が必要なものに関しては、「行程表」等により各年度の進捗がわかるような表記について検討いたします。</p>	総合政策部 秘書政策課